



100m走では負けてしまう相手でも、
「ハードルの技術があれば勝てる！」
それがハードル競技の魅力

写真提供 埼玉新聞社

悔しさをバネに

彩那さんは小学生のとき、連合運動会で入賞したのをきっかけに、中学生で本格的にハードルを始めました。最初は「勝てなかった」そうですが、練習で徐々に力をつけ、2年生の新人戦県大会では、決勝へ進出。9台目のハードルまでトップで進むものの、最後の10台目で足をとられ2位に…。

以来、学校の練習以外にも、毎月、県選抜の選手による合同練習に参加し、専門家に教えるをこうなど、努力を重ねました。

「今年の県大会で優勝し、全国大会に行けたのも昨年の悔しさがあったからこそ」だと言います。

より速く、美しく

彩那さんの武器は、そのハードル「さばき」とフォームの「美しさ」。スタートで出遅れても、台数を重ねるうちに追いついていく自信があります。「フォームの美しさは」



今年の夏、「全日本中学校通信陸上競技大会埼玉県大会」の女子100メートルハードル競技で、全国大会参加標準記録を上回る14.70秒で優勝し、全国大会に出場した関田彩那さんを紹介します。

西中学校(3年生) 陸上部所属

第64回全日本中学校通信陸上競技大会埼玉県大会 優勝

平成30年度学校総合体育大会 優勝

第45回全日本中学校陸上競技選手権大会準決勝進出

あまり意識したことはありませんが、3歳からやっていた新体操の柔軟性が活かされているのかもしれない(笑)。大きなけがもありませんでした。

この経験を活かして

3年間の部活動を終えて、「楽しかった」と笑顔。全国大会への道は、ときにつらく、険しかったはずですが、それでも楽しかったと思えるのは、日々の練習を支えてくれた陸上部の仲間や、同じハードル競技で切磋琢磨し合った県選抜のメンバー、そしていつも応援してくれた家族のおかげだと言います。「中学生生活で得られた仲間や経験は一生もの。高校では、ハードルの高さなども変わり、また一からのスタートですが、この経験を活かして、これからもハードルを続けていきたい」と力強く話してくれました。

その先の「ハードル」を目指して！
彩那さんの挑戦は続きます。

編集後記

認知症という怖いイメージをもつ方が多いと思います。自分や身近な人がなったらどうしよう…できれば考えたくないかもしれません。しかし、周囲のサポートによって本人も家族も穏やかに地域で過ごせる可能性が高くなります。今回の特集をきっかけに、認知症の方を温かな目で見守る輪が広がれば、望外の喜びです。ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ
✉ 10200001@city.tsurugashima.lg.jp



“お兄ちゃん大好き
仲良し兄妹です!”
なかにしああい
中西葵音ちゃん(9か月)
あいと
藍音ちゃん(4歳9か月)

笑顔の天使

“ジャンケンパー!”
たいらこうしろう
平良幸志郎ちゃん
(1歳1か月)

